令和４年 12 月１日　第９号

坂戸市立三芳野小学校学校だより

若　葉

みよし野のたのむの雁もひたぶるに
　君が方にぞよると鳴くなる
わが方によると鳴くなるみよし野の
　たのむの雁をいつか忘れむ（「伊勢物語」）

のびのびと生きる子…みんなと仲良くする子、よろこんで学ぶ子、しんけんに体をきたえる子
目指す学校像　〇一人ひとりが学校・地域を愛し、より良い自分をめざし、力を発揮する。
　　〇一人ひとりが仲間から必要とされ、互いの良さを認め合う。

≪見る力を育てる≫〇よろこんで学ぶ子　〇しんけんに体をきたえる子

家庭でお子さんの姿を見て、次のようなことが頻繁に見られることがあるでしょうか？
・良くつまずく、転ぶ。　・ボール運動が苦手。　・板書をノートにとることが苦手。
これらの運動面や学習面での困難さは、もしかすると、「見る力」の弱さが原因かもしれません。
「見る力」とは、いわゆる視力のことではありません。私たちは、運動や学習、生活場面などあらゆる場所で目を使っています。「見る力（ビジョン）」は大きく分けて、①「眼球運動」②「視空間認知」③「目と体のチームワーク」という三つの構成要素があります。
①「眼球運動」は、物を目で追ったり、視線を素早く動かしたり、両目を寄せたり話したりする動きです。
②「視空間認知」は、目から入った情報を脳で把握する能力です。物との距離感や奥行き、文字の形を把握するときに使われます。この機能を身に付けていくためには、実際に物を見たり触ったり、興味のあるものを目でとらえて手を伸ばしたりと、空間の中で目や体を使う経験が必要です。
③「目と体のチームワーク」は、資格の働きと体の動きを連動させることです。例えば、「ボールで遊ぶ」ことを例に挙げて考えてみると
ア　転がってくるボールを目でとらえて、目で追う。
イ　ボールが到達する位置とタイミングを脳が把握する。
ウ　目で追いながら体を動かして、手を伸ばしてキャッチする。
このように、私たちの体は視覚の情報を基に動いています。私たちは、これらの一連の動きを普段意識することなく行っています。ボール遊びが練習しなければうまくならないように、このような「見る」と「動く」という能力のつながりは、生活しながらできるようになります。
最近の研究では、読み書きの困難さや運動面での不器用さの原因の一つに「見る力」の弱さがあることがわかってきました。「見る力」に弱さがある場合、普段の学習をどんなに頑張っても、なかなかできるようにならないと言われています。
そこで、「見る力」を鍛えること、つまり「ビジョン・トレーニング」というものがあります。ご家庭でも簡単にできる方法も多いです。
・右、左、上、下と眼球を動かす。（眼球運動）
・点つなぎ、模写など、形や絵をマネして書く。（視空間認知）
・向かい合って相手の動きをマネする。（視空間認知、目と体のチームワーク）
・平均台などで遊ぶ。（目と体のチームワーク）
この「ビジョン・トレーニング」を続けることで、文字の形が整ってきた、文字がマスからはみ出なくなった、転びにくくなった等の結果が報告されています。

≪≫

11.11 ２年芋掘り

11.12 5・6年
薬物乱用防止教室

11.17 わくわくﾋﾟｸﾆｯｸ

11.19
さくら・たんぽぽ校外学習